

令和7年 第1回福祉医療常任委員会所管事務調査報告書

令和7年1月21日

別海町議会議長 西原 浩 様

福祉医療常任委員長 外山 浩 司

福祉医療常任委員会の所管事務調査を実施したので、別海町議会会議規則第77条の規定により、次のとおり報告いたします。

記

《第1回》

1 日時

令和7年1月21日（火） 午前10時00分から午後3時50分まで

2 開催場所

委員会室3

3 出席委員

外山浩司委員長、中村忠士委員、小椋哲也委員、高橋眞結美委員

4 欠席委員

宮越正人副委員長

5 委員外

なし

6 協議事項

（1）ごみ処理の状況について

7 説明員の職と氏名

保健生活部長 小川信明、保健生活部次長 谷村将志、生活環境課長 上田健一 ほか

8 協議結果

（1）所管事務調査項目

①ごみ処理の状況について（保健生活部）

・施設見学を実施、見学前に説明を受ける。

その中で、別海町最終処分場の使用終了見込みが令和20年度であるとの説明があったが、広域連合のごみ処理施設において、施設延命化のための改修工事を実施することとし、検討の結果、現在の「ガス化溶融炉」から「燃焼炉」に変わることとなった。このことから、今より多くの焼却灰が生じることになり、その灰を各町に持ち帰り、埋め立て処理を行うことにより、最終処分場の使用年数が早まることになる。

○別海町ごみ処理場に関して

- ・最終処分場の今後の状況を注視していく必要がある。
- ・4月からの新しい委員会に引き継ぐ内容。

○根室北部広域ごみ処理施設に関して

- 建設当時は「21世紀の先端技術」を生かした環境問題（ダイオキシ）に配慮した施設であったが、現在はさらに技術が進化していることに伴い、全国的に「溶解炉」から「燃焼炉」にシステムが変わってきている。
- 世界的な動きでは、ごみを燃やさない方向にきている。カーボンニュートラルの動きで、二酸化炭素を発生させないことが常識になってきている。
- 10年先を考えた長期的な計画が必要である。現在の根室北部広域ごみ処理施設のままがいいのか、別海町単独で処理をしていくのか。
- 燃えるごみの中に、車のエンジンやガスボンベなどが入っていて大きな問題になった。実際混入していた異物が、廊下に展示されていて、見学に来た小学生などが見ることが出来ることは良い。（小学校の社会見学の受け入れが年に15回前後ある旨、説明を受けた。）
- 本件は継続して調査を進めることとする。

(2) その他

①委員会代表質問に関して

「病院経営について」

- 病院経営の細かな点ではなく、今後の病院の経営に関してだけに絞った方がいい。
- 昨年末に2年間かけて作成した「別海町立病院改善プラン」を今後どのように活用し、運営方法を、誰がどのように改善していくかを問うべき。
- 必ず町長自身からの答弁を引き出すような工夫を。

②常任委員会の視察研修について

- 今年度は実地しない。

③次回の委員会開催について

- 2月10日（月）を予定。

以上